

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差(令和8年度の目標は、前年度の当該学年より+2ポイントを目指す。)									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度		国語		算数		国語		算数		国語		算数	
令和12年度の目標						令和12年度の目標							
令和11年度の目標						令和11年度の目標							
令和10年度の目標						令和10年度の目標							
令和9年度の目標						令和9年度の目標							
令和8年度の目標		0		0		令和8年度の目標		-3.0		-2.0		-3.6	
令和7年度の結果		-1.0		-1.0		令和7年度の結果		-5.6		-4.4		-2.8	
令和6年度の結果		-0.4		-1.6		令和6年度の結果		-9.0		-1.1		-0.5	
令和5年度の結果		-0.4		-0.8		令和5年度の結果							

令和7年度 成果と課題		令和8年度	
年度 内容	目標	目標達成に向けた取組	
学校全体	【成果】 ○全校でよむYOMUワークシートに取り組むことで、文章問題に抵抗なく取り組むことができる児童が増えた。 ○算数科では、家庭学習や授業において基礎基本の定着を図ったり、学習カルテを活用したりすることで区の平均を上回る学年が増えた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果より、3～6年の国語科の「読むこと」の領域が全国の平均を下回っている。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、算数科では、「測定」の区分の得点率が低かった。国語科では、「読むこと」の区分が全国平均より10ポイント以上低かった。	○国語科において、読解力の向上を図る授業展開を目指す。 ○朝読書の時間を徹底する。 ○よむYOMUワークシートの確実な実施と効果的な活用を目指す。 ○各学年に応じた計算ができるようにする。	○校内研究において「読むこと」の領域で授業改善を目指した研究を行う。「国語科」を研究することで、国語科の指導力を上げるだけでなく、研究内容を発展学習や他教科にも生かしていく。 ○朝読書の時間をしっかりと確保し、保証する。学年相応の読書ができるように学級の書棚も定期的に入れ替える等、児童の読書への意欲を高める。 ○よむYOMUワークシートを活用し、文章の要約をしたり、難解語句を調べたり、感想や自分の意見を書いたりする機会を設ける。 ○学習カルテや東京ベーシックドリルの結果から児童の実態を的確に把握する。実態に応じてドリルパークや計算スキルを活用し、学年相応の計算ができるようにする。
第1学年	【成果】 ○音読の機会をたくさん与え、文章で単語のまとまりを意識して読むことができる児童が多い。 ○一人一人、ひらがな・カタカナのテストをし、全ての児童が正しい字形で書くことができた。 ○10の構成をほとんどの児童が理解することができた。 【課題】 ○文章を書く際に「じ」や「が」、1字下げで書き始める等のルールがあいまいな児童がいる。 ○2割程度、繰り上がり、繰り下げの理解が不十分な児童がいる。	○読書を通して「読む力」や「語彙」を身につけ、豊かな感性を育んでいく。 ○算数科で、数感覚を育成する。 ○算数科の繰り上がりや繰り下げについて、全員が年度末までに習熟できるようにする。	○読書科や国語科の授業で「読み聞かせ」を多く取り入れ、読書に慣れ親しむことができる環境を作る。 ○具体物やおはじきなどの半具体物を利用して数の大きさや演算を考えることができるようにする。 ○算数科の繰り上がりや繰り下げについて、授業の中で十進位取り記数法について位取り表を活用したり、自分でノートに書かせたりしてその構造を理解させ、日々の授業や家庭学習で繰り返しプリント練習を行い、習熟させる。
第2学年	【成果】 ○よむYOMUワークシートに取り組むことで、新聞記事に興味をもち、楽しんで文章を読む姿が見られた。 ○単元毎に漢字のミニテストを実施し、学期の漢字まとめテストでは、平均を8割以上とすることができた。 ○かけ算九九は、ほとんどの児童が習得することができた。 【課題】 ○文章を書く際に、学んだ漢字を使う、「じ」の使い方のルールが十分に守られていない児童が2割程度いる。 ○繰り下げのひき算、かけ算九九の定着が不十分な児童が2割程度いる。	○読書やよむYOMUワークシートを通して「読む力」や「語彙」を身につけ、豊かな感性を育んでいく。 ○国語科では、漢字の練習をたくさん行い、2年生までに習う漢字を読んだり、文章の中で使ったりできるようにする。 ○算数科では、たし算とひき算の筆算の仕方を習熟できるようにし、九九の暗唱を年度末までに全員ができるよう指導する。	○読書科や国語科の授業で「読み聞かせ」を多く取り入れ、読書に慣れ親しむことができる環境を作る。 ○毎日の宿題として、漢字、計算、音読を出し、漢字や計算等の基礎的な学習を身につけるようにする。 ○ミライシードのドリルパークを活用し、漢字や言葉の定着、基本的な計算の定着を図っていく。 ○算数科では、習熟度別で指導を行い、児童の実態に応じて問題の数や難易度を変えて実施する。
第3学年	【成果】 ○毎日の宿題（音読・漢字・算数）に取り組んだ。特に算数科では3桁×2桁のかけ算の習熟を図るため、1学期に九九百マスプリント、2学期に3桁×1桁のプリント、3学期に3桁×2桁のプリントを繰り返し行い習熟させた。また、ミライシードのドリルパークを活用して漢字や算数科の習熟を年間通して行った。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科で全国平均より5.6ポイント、算数科で-4.4ポイントであった。特に応用において全国平均との差が国語科-8.4、算数科-9.3であった。領域別では国語科で「話す・聞く」が低く、算数科では「測定」が低かった。校内研究で追求してきた一人一人の児童に「読む力」をつけることができるよう引き続き取り組むことにより、国語科、算数科の双方の「応用」でも力を発揮できるようになると考える。	○読書やよむYOMUワークシートを通して「読む力」や「語彙」を身につけ、豊かな感性を育んでいく。 ○国語科では、CD層を引き上げる。3年生までの漢字を読んだり文章の中で使ったりできるようにする。 ○算数科の四則計算について、全員が年度末までに習熟できるようにする。	○よむYOMUワークシートの取り組み、読書活動の充実、江戸川区スタンダードを基にした授業改善等に取り組んでいく。 ○毎日の宿題として、漢字、計算、音読を出し、漢字や計算等の基礎的な学習を身につけるようにする。 ○ミライシードのドリルパークを活用し、漢字や言葉の定着、四則計算の定着を徹底していく。 ○算数科では、児童の実態を基に習熟度のコースを設定し、既習事項を意識して学習を積み重ねていけるようにする。
第4学年	【成果】 ○よむYOMUワークシートの取組、国語科の授業研究を通して、江戸川区学習調査では、前年より約6ポイント上げることができた。 ○区の学力テストを基に学習カルテを作成し、苦手なところの復習をした。江戸川区学習調査では、全国の平均を上回ることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では約50％がCD層に属している。 ○江戸川区学力調査の結果から、「書くこと」が-6.8と課題になっている。 ○江戸川区学力調査の結果から、算数科では、データの活用点数が-2.8と課題になっている。	○国語科では、CD層を引き上げる。自分の考えや思いを躊躇なく「書くこと」ができるようにする。 ○算数科では、数と計算及び測定に置いて系統性を意識した指導を行い、理解を確実にする。	○動画教材やICTを活用し、自分が話している様子を客観的にみられるような活動を授業に取り入れる。 ○他教科でもインタビュー活動や話し合い活動を行い、話したり聞いたりする経験を増やす。 ○江戸川区スタンダードを基にした授業改善に取り組み、既習事項を意識して学習を積み重ねていけるようにする。 ○習熟度別指導では、児童の実態に応じて問題の数や難易度を変えて実施する。
第5学年	【成果】 ○類似問題に繰り返し取り組ませることで、基礎的な知識・技能の定着を図ることができ、国語、算数ともに平均値に近づき結果となった。 ○算数では、系統性を意識した授業を展開したことで、既習事項との関連を理解しやすくなり、知識・技能分野では、全国平均を上回ることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科算数科ともに、約45％がCD層に属している。 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、言葉、情報、言語文化分野が-2.9と課題になっている。 ○江戸川区学力調査の結果から、算数科では、思考判断表現が-3.5と課題になっている。	○国語科では、CD層を引き上げる。自分の考えや思いを躊躇なく「書くこと」ができるようにする。 ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。基礎的・基本的な計算能力を向上させる。	○よむYOMUワークシートの取り組み、読書活動の充実、江戸川区スタンダードを基にした授業改善等に取り組んでいく。 ○日々の授業の中で自分の考えや思いを書く、書いたことを共有する時間を増やしていく。 ○児童の実態を基に習熟度のコースを設定する。発展コースでは、応用問題に取り組む時間を増やす。学習カルテを活用し、基礎基本的な力を付ける。
第6学年	【成果】 ○よむYOMUワークシートの取組、国語科の授業研究を通して、江戸川区学習調査では、前年よりA層が約11％増えることができた。 ○算数では、系統性を意識した授業を展開したことで、既習事項との関連を理解しやすくなり、知識・技能分野では、全国平均を上回ることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科算数科ともに、約55％がCD層に属している。 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、書くこと分野が-2.7と課題になっている。 ○江戸川区学力調査の結果から、算数科では、思考判断表現が-2.5と課題になっている。	○国語科では、CD層を引き上げる。自分で語彙を調べたり、適切な言葉を使って話すことができるようにし、言葉、情報、言語文化を伸ばす。 ○算数科では、基礎的・基本的な分野や系統性を大切にしながら、思考判断表現の能力を向上させる。	○語彙を増やすために、辞書を引く活動や読書活動の充実に積極的に取り組んでいく。 ○「読むこと」の活動で文章の内容を正確に捉えることができるように、よむYOMUワークシートを活用して、文意を捉える練習を行う。 ○習熟度別指導では、児童の実態に応じて取り組む問題を工夫する。発展コースでは、文章問題や自分の考えを表現する問題に取り組む時間を増やす。